
ア リ ス ド ー ル

サイキアスカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アリスドール

【Nコード】

N4188A

【作者名】

サイキアスカ

【あらすじ】

この人形は「アリスドール」過酷な運命を背負っている人形。そして、今。戦いが始まる。

第一話・変な出会い（前書き）

ゆきやこんこん、あられやこんこん、ふってもふってもしんしん
つもるゝ

第一話・変な出会い

あたしたち「ドール」は幻の少女「アリス」をまねて造られた。
でも、けして「アリス」に似た「ドール」は造れなかった。

「アリス」は汚れない、宝石よりも輝いていて、どんなものより美しい。

あたしたちは「アリスドール」と呼ばれた。

日本。

東京。

真冬。

雪が降っている。

「寒い」

少年——高坂晶^{こうさかあき}13歳。

背の小さい、茶色の髪 of 少年だ。

彼はいま、学校の帰りであった。

授業中に雪が降り出したことは知っていたが、なぜか教室に上着を置いてきた馬鹿だ。

晶は急ぎ足で家に向かっていった。

その途中……。

「……？」

晶の目には、何かが映った。

眼の前を、鞆みたいな物が二つ、猛スピードで通り過ぎた。
そして……電柱にぶつかった。

一つがパカリと開いて、中から何かが出てきた。

——人形だ。

もう一つは、宙に浮いたまま開いた。

そして、中から人形が出てきた。

「ほら見なさい。だから言ったでしょう。危険よって」

「で・・・でも・・・寒いだもん!!」

喋った。

ボクは聞いたぞ。しつかりばっちり。

人形が喋ったところを。

オトナっぽい口調の人形が晶に気づいた。

「あら、人間じゃない」

「え！？人間！？」

二人（？）の人形が晶に向かって歩いてきた。

そして、二人は晶を見渡す。

「まあまあね」

黄金色の腰まである、長い髪を上の方でちょっとだけ、結んでいる人形が言った。

「は？」

「意味が分からない？それもそうね。あなたがわたしたちの「契約者」になるかどうかのことよ」

「契約者？なんの」

「アリスドールの！」

今度は、青色のセミロングでカールがかかった髪の少女が言った。

「アリスドールってね・・・」

数分後。

「なの！わかった？」

「三十字以内でよろしく」

「つまり、「幻の少女「アリス」に似せて造られたのがあたしたち

「アリスドール」」

「なるほど」

晶は感心した。

「で？」

「はい？」

晶は長い髪の少女に言われ、きょんとした。

「どうしてくれるの？貴方と話していたらドレスが雪でびしょびしょ。どう責任とってくれるのかしら？」

「・・・ボクの責任じゃないブツッ!？」

突然晶に向かって、雪玉が投げられた。

しかも凄まじいスピードで。

「うるさいわね。もんくあるのかしら？」

「ありますあります。おおありでほっっ!？」

また、凄まじいスピードの雪玉が投げられた。

しかも、さっきより硬い。

「で？」

多分、さっきより怒っているだろう。

もう雪玉の用意をしている。

「わ・・・わかりました。どうぞ、ボクの家へきてください」

「よろしい。ひなぎく行くわよ」

「ふひ？」

「何雪食ってんだ!！」

「もひもひもひ・・・おいひー!！」

「うまくない!！」

「そうよ。ひなぎく。さっさと行くわよ」

「はい。でもでも、アイリス」

「食べ物なら、このコの家で貰いなさい。いっぱいあるから」

「ホント!？いくいく絶対行く!！」

こうして、晶は余分な物を持って帰ることになった。

だが、晶知らない。

この人形たちの運命を・・・。

第一話・変な出会い（後書き）

その後、晶は風邪をひいた。

奴隸化！？契約（前書き）

不思議な人形を家にもって帰った晶。

奴隷化！？契約

「……………」

うわぁ・・・ありえねえ・・・。

晶はそう思った。

今、晶が見ている光景は・・・人形が食べ物をおぼえている光景であつた。

しかも！

冷蔵庫の中身全部であつた。

ありとあらゆる食べ物がおぼつくされている。

あの小さい体によく入るな、と思つたほどだ。
だが、

「ちよつと、待て！！」

「なによ」

「なに〜？」

「ボクん家の食いもん全部食つきか！？」

それを聞いた長い髪の人形は、ギロリと晶を睨んでから、また食べ物に眼を移し、言つた。

「あら、失礼ね。あなたが一日食べる量は取つてあるわ
たつた一日かよ・・・

晶は何気、心の中でつつこんで見た。

「心配ないよぉ〜せめて、一週間分は残しておくから〜」
はぁ〜〜〜〜〜〜・・・

ボクの命は一週間で尽きるのか・・・

「そうそう。晶、紅茶を持つてきてちょうだい」

「はぁ？なんでボクが・・・」

「晶、紅茶を持つてきてちょうだい」

長い髪の人形はなんて睨むのがうまいのだろう。

晶は言われるままに、動いた。

寒いといえば、ストーブをつけたり、紅茶のお代わりを持ってきたり・・・。

これは完全に「奴隷」だ！

しかし、これがずっと続いていたわけでは無い。

「晶」

長い髪の人形は言った。

「前に、「契約」って言ったわよね？」

「ん？ああ、言った言った」

「今から、契約やるから」

「え？」

おいおい。まてまて。ストップ！

話の展開が速すぎないか！？

その理由ぐらい説明しろよ！

「契約の理由。戦いが始まるからよ」

「え・・・？何の戦い？」

晶はベッドに座りながら聞き返す。

「アリスドールの願い実現のためのゲーム」

長い髪の人形は、深刻な顔で言う。

「願いなんか有るのか？」

晶は「人形の願い」など有るのか、だんだん聞いてみたくなった。

「あるわ。わたしたちは、人形として生まれ、人形として生きてきた。それもただの人形じゃない、「命ある人形」で。わたしであれば、人間になりたいとか・・・」

「ひなはお菓子をいっぱい食べたい〜〜！！」

そっついながらも、食べ物をほおぼる人形。

「あれは・・・願い？ていうか、もう食うな！」

「・・・一応、願い」

長い髪の人形は続けた。

「願い実現のためには、戦いに勝たなくてはいけない。その戦いが今始まるうとしているの。それも、今までの戦いより大きい戦い。」

なにしろ、7体の人形が一揆に目覚めたんだから」

「・・・動いてる人形が7体もあるのか？」

「ええ」

部屋には、しばらくの沈黙が流れた。いや、お菓子を噛んでいる音だけははつきり聞こえるが。

「分かった。契約でも何でもやってやろうじゃん。ただ、条件がある」

「条件？」

「いい」といわれたときは輝いていた顔が、「条件」という言葉を聞いて、一揆に曇り顔になった。

「その条件っていうのは・・・？」

長い髪の人形が真顔で聞く。

そうとう、契約というのをしてほしいらしい。

「条件とは・・・」

「条件とは・・・？」

長い髪の人形は息を呑んだ。

「アイツをどうにかしろ」

「へ・・・？」

晶が指差した先には、お菓子をほおばっている人形がいた。

長い髪の人形は拍子抜けだったらしく、肩の力を抜いた。

「・・・それで・・・いいの？」

「家の食料品がなくなるよりマシだ」

晶は仁王立ちで立ったまま言う。

「分かったわ。ひなぎく、やめなさい」

長い髪の人形は言う。

「ふえ〜？いいはん、へふに〜。へっ？あひるひ（ええ〜？いいじゃん、べつに〜。ねっ？アイリス）」

「ダメよ」

「ひあ！（いや！）」

長い髪の人形——アイリスは叫ぶ。

「ひなぎく！」

「ひゃ！（いや！）」

ひなぎくも負けてはいない。

「そう、じゃあしょうがないわね」

アイリスは何か呪文を唱えた。

その瞬間、あたりを青い花びらが覆った。

「・・・アイリスの花・・・？」

「そうよ。さあ・・・ひなぎくを抑えて！」

青い花は、一瞬のうちにひなぎくを覆った。

しかし、ひなぎくも負けてはいない。

中から、オレンジ色の花びらが見えた。

「・・・ひなぎく・・・？」

「・・・あっ！」

突如、アイリスが叫んだ。

「え？」

「あそこにお菓子のお店が！」

「えええ！！？ひな行く~~~~！！！」

馬鹿だ。

んなもん、あるわけないだろ。

まあ、すべて食いもんが消えるよりはマシか。

「おお！おいしそうなもんがいっぱい売ってるぞ！」

まるつきり、棒読みだが、ひなぎくに余計行かせたくした。

ひなぎくは花びらの渦の中にいて、外が見えない。そのため、無い

としても言っておくと後が便利になった。

そして、「おいしそう」コールを続けること、三分。

とうとう、ひなぎくが花びらを弱め外へ出ようとした。

「いまよ！」

アイリスが叫び、アイリスの花びらは、あっという間にひなぎくを

押さえた。

「わあぁーん！うそつきー！！」

ひなぎくは泣いているが、最後に食べていたガムをまだ食べている。

「これで、いいのね？」

「ああ・・まあ、いいんだけど」

「じゃっ、始めるわよ。シールド展開！魔方阵「解」！」

その瞬間、青いわけの分らない言葉が刻まれた、魔法陣が現れ、その周りから青い光で立体状の半円が出てきた。

「契約者・アイリス・晶！」

その瞬間、アイリスの体が宙に浮いた。

「うわっ・・」

そして、アイリスは晶の目の前で止まると、晶に近づいてきた。

そして、

ちゅう・

とキスをしてきた。

「!!!!!!!!!!!!!! ??????」

晶は、驚きで声も出せない。

え？え？えええ？

ボク、人形にキスされた！？

アイリスは、なんでもないので、普通にしており、静かに床に下りた。

——契約完了。

どこからか声がした。

その瞬間。

グアアツ！と重力で床にへばりついた。

「契約お疲れさま！次ひなのの！」

そして、また、次はオレンジ色の光に包まれた。

アイリスのときと同じ事を繰り返した。

また、「契約完了」という声がした。

その瞬間。

ゴンツゴンツと晶の頭に何かがぶつかった。

「な・・なんだ？これ」

それは、よくある宝箱のような箱であった。けれど小さい。

開けてみると、それは、薄い青のかかった透明な指輪と、薄いオレンジのかかった透明な指輪であった。

「これは・・・契約の指輪。壊さない限り、どこにおいてあってもかまわないわ。ただ、誰かに取られたりでもしたら、わたしたちがゆるさないけれどね」

「はい」

ということで、晶はその指輪をチェーンに通して、いつも身につけていた。

奴隸化！？契約（後書き）

家の食費・大丈夫か？

I
N
晶

しめんなさい。(前書き)

すみません。これで、アリスドールは終わらせていただきます。

いめんなさい。

えっと・・・どうも。

作者のサイキアス力です・・・。

えっと、このたび、このアリスドールを終わらせていただきます。

えっと・・・「ローゼンメイデン」というアニメ（マンガ？小説？）に似ているというので、ローゼンメイデンの作者様に、ご迷惑をおかけしないよう、止めさせていただきます！

えっと・・・申し訳ありませんでした！
反省しています。

（あと、ローゼンメイデンって何でしょう？）

あと、「異世界・オリエン」も同じく、似ているというので、止めさせていただきます。

本当にすみませんでした。

これからはそういうことがないように頑張ります！

それでは、さようなら。

そして、すみませんでした。

えっと、すみません。

文字数が足りないので、誤ります。

すみませんすみませんすみません

いじめんなさいいじめんなさいいじめんなさい

すみません すいません すみません

いじめんなさいいじめんなさいいじめんなさい

申し訳ありませんでした。

申し訳ありませんでした。

ちなみに、異世界・オリーエンも同じ内容で誤らせて頂きます。

すみませんすみませんすみませんすみませんすみませんすみませんすみませんすみません

すみませんすみません

ごめんなさい！

すみませんすみませんすみませんすみませんすみませんすみませんすみません

ごめんなさい！すみませんすみませんすみませんすみませんすみません

せん

本当に、申し訳ありませんでした。

ごめんなさいごめんなさいごめんなさい

すみませんすみませんすみませんすみませんすみませんすみません！

ごめんなさい・・・・・・・・・・・・・・・・

ごめんなさい！

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	8												

B
A
C
K

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

いめんなさい。(後書き)

本当にすみませんでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4188a/>

ア リ ス ド ー ル

2010年10月15日23時40分発行